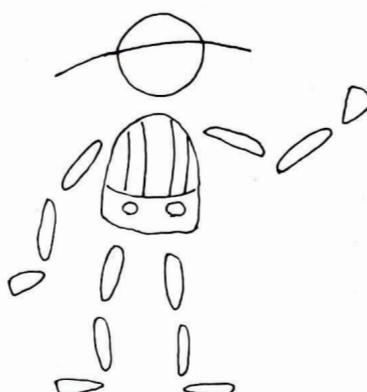


## □単位制度について□

現在、毎週1コマ、半期で講義は2単位、外国語及び演習は1単位（例外あり）、毎週1.5コマ、半期で実験は1単位である。なぜこのように設定されているのかというと、与える単位数は、学生がその授業の予習にかける時間に比例するようにしてあるからだそうだ。これほど実状とかけ離れた話があろうか。ふつうの講義より、外国語や演習の方が予習時間が多いことはいうまでもない。また、ただ話を聞くだけの講義より、訳したり、討論したり、発表したり、実験したりする方が単位が少ないというのは全くおかしい。これは講義に片寄りがちな日本の大学教育の現れであるかもしれない。このことは後で述べる。早く、このような不合理な単位制度が改善されることを望む。

また、取得しなければならない単位が多すぎるという問題がある。現在、多くの2年生は、1～4コマのほとんどすべてに授業を詰め込んで、それを消化するのに苦労している。これでは、一つ一つの授業に集中すると、この授業のためにがんばって勉強する、といったことがやりにくい。教官のやる気も失せてしまう。取得しなければならない単位を減らして、学生も教官も、一つ一つの授業に集中する方がよい。



## □授業内容について□

まず、総科の中に、専門分野だけ研究し、専門分野だけ教えればいいという教官がいる。私に言わせると、こういう人は、他の専門的な学部に移った方がよい。教官の研究は専門で判断されることが多いので大変だが、やはり、総科での教育は、総合的知識と教養を与えるものであってほしい。そうでなくとも、少なくとも学問の境界を越えるような教育をしてほしい。人事でも、そういう研究・教育をする人を多く採用してほしい。

## □授業形態について□

現在、大学の授業の多くは講義で占められている。討論をしたり、発表をしたり、外へ調査に行ったりする授業は少ない。ただ話を聞くだけというのは、どんなにすばらしい話でも、後に残るものは比較的少ない。様々な考え方をもった人と話をしたり、自分の考えをまとめてみんなの前で述べたり、外で体を動かして経験したりすることによって得るものは非常に大きい。だからどんどんこういうものを授業に取り入れてほしい。そんなのは大学に頼らずに自分の力でやれといふ人もいるだろうが、大学という器がある以上、やれるのに越したことはない。

以上総科の意義と問題点について自分の考えを述べてきたが、こういうことについて学生と教官が話し合える場ができたらいいと思う。

この文章に意見のある人は、飛翔の話し合いに出てきてどんどん言ってほしい。

（編集部：村田雅洋）

## III. 再び総合科学部とは



ローマは巨大なのだ。そして巨大すぎるゆえに病んでいるのかもしれない。だが、ローマの巨大こそは、人間が個々の地域にしぶりつけられず、人間として自由に普遍的に生きられる証しなのではないか。…だが、もしさのローマ帝国が巨大さのゆえに病まなければならないとしたら、それは、ローマが人間たちのために高価な代償を支払っていることなのだ。ローマ帝国が病んでいるからといって、この巨大さを縮小したり、分割したりしてはならぬ。巨大こそは、人間を土俗から解放し、自由に人間として考える基盤をつくったからだ。ローマが巨大さのゆえに病んでいるとしたら、そのやめる部分を治療させることによって、巨大さを維持しなければならぬ。巨大こそがローマ帝国の果した最大の功業なのだから。このローマ帝国の壮大な精神の炉をとおって、万民は、ただ一つの、人間となったのだから…。

（辻邦生『背教者ユリアヌス』中公文庫）



## □総合科学という学問はあるか□

総合科学を定義することができるだろうか。常に問われてきたし、問われ続けるだろうことである。ここでは敢えて「できない」と言う。むしろ「できてはいけない」と言う。

「総合科学部とは～である」と定義ができてしまったとき、それはすなわち、総合科学部がその生命を失うときである。なぜなら、「総合科学」という学問ができてしまった以上、「学際的」という言葉は形容矛盾となる。一つの「学」を行なうのだから。また、この一つの「学」に視点を定めるとき、「広い視野をもつ」という謳い文句は実質を保つことができるだろうか。

したがって定義はできない。しかし定義をするなと言うのではない。常に定義から逃れて行く「正体不明の総合科学なるもの」と、なおそれを定義づけようとするわたしたちとの追いかけっこそれが、総合科学部の本質ではないかと思われるるのである。それでは総合科学部とは何か。

## □総合科学部は開始であり完成である□

人が生活の苦難や危険のただ中にあってもそういうものを感じながら、つまり、自然や絵画の中の色彩の戯れや、あらしや海の声の中の呼びかけや、人間の作った音楽などを楽しむことができるかぎり、また、利害や困難などの表面の奥で、世界を全体としてみたり感じたりすることができるかぎり、つまり、たわむれる若いねこの頭が描く曲線から、奏鳴曲の変奏演奏にいたるまで、連関があり、無数に豊富なつながり、相応、類似、反映が存在していて、絶えず流れることばから、聞くものに喜びと知恵、冗談と感動の与えられる、そういう全体として世界を見たり感じたりすることができるかぎり、それができるかぎり、人間は、自分というものにまつわる疑問を繰り返し処理して、自分の存在に繰り返し意味を認めるができるだろう。「意味」こそ、多様なもののが統一であるから。そうでないとしても、世界の混乱を統一と調和としてほのかに感ずる精神の力であるから。

（ヘッセ、高橋健二（訳）『幸福論』新潮文庫）

事物を知るというのは、本来は混沌とした一つの全体である現象を、あるものさしによって区切ってみることだ。どんどん区切っていくと、より詳しく、細部まで見えてくる。そうして区切りをつけた全体を見渡してみる。混沌ではなく、諸部分が有機的に関連する全体が見えてくる。

総合科学部のいわゆる「学際性」というのは、新しいものさしで区切ってみることである。そうすることで、古いものさしによる区切り方では見えなかったようなものが見えてくる。境目の部分も見えてくる。既製品でない新しいものさしは、自分でつくらなくっちゃいけない。自分で目盛りを入れなくちゃいけない。それが総合科学部の「開始」としての在り方である。

もう一つの理念である「広い視野」というのは、区切りをつけた全体を見渡してみるとある。それが総合科学部の「完成」としての在り方である。

したがって、総合科学部には常に、「開始」と「完成」(新しい分析とその総合)という、二つの方向性が必要である。分析と総合ということであれば、どの学部でもしているだろう。すると、総合科学部を特徴づけるのは、新しいものさしを作ることである。

総合科学部は、4つのコース区分に始まり、8コースへと細分化された。これは、新しいものさしによって区切っていく作業だった。どんどん区切っていくことで、より詳しく、細部まで見えてきただろう。そのことはもちろん評価したい。では今必要なのは何か。一つは全体を見渡してみること、もう一つは新しいものさしを作ることである。

「学際性(開始)」と「広い視野(完成)」を看板に掲げるなら、分析しながらも常に全体を見渡し、さらに新しいものさしを作る作業もしていかなければならぬ。ということは、コース編成も、常に検討中でなければおかしい、ということだろう。先に総合科学と定義づけとの追いかけっこと言ったのは、こうした意味合いにおいてである。

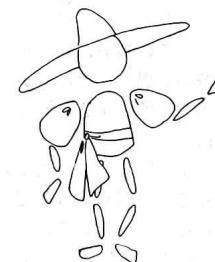
## □制度は水路、流れる水の勢い□

それがねえ、今でも多すぎるんですよ！朝から晩まで人に教えていたら、いついつ学べるんです？何てことだ、…いつ研究しろというんだ？いいですか、僕の学問はまだ知識欲が旺盛なんだ。…だのにもし僕が、自分の生計を何とか立てていくために、金を払う低能児を片っ端から生徒にして、こいつらの漏斗頭に平行線は無限の点で交わるって事を叩きこまなきゃならないとしたら、僕はいったいどうやって自分の研究を進めたらいいんです？

(ブレヒト、岩淵達治(訳)『ガリレイの生涯』  
岩波文庫)

上の引用は、ガリレイが、事務局長に昇給の願いを断られた場面で暮らす不平である。先生方の日頃の思いを代弁しているかのようではないか。必修科目の多さを含めて、繁雑な制度は、学生のみならず、教える側の教官、事務処理をする事務官にとっても、マイナス要因となる。できるならば規制は少なくし、運用面でカバーできるようにしたいものだ。

とはいえ、ガリレイはそれでも何事かを成したのである。制度をぐぐり抜けること、制度をねじ曲げてしまうこと、もちろんおおっぴらにお勧めはできない。でも…。問題にしたいのは、制度に縛られて身動きできなくなったりしないようなエネルギーがあるか、ということである。制度など笑い飛ばしてしまうほどのおおらかさがあつてもいいのではないか。



制度を水路にたとえてみよう。その役割は、あふれ出す水に流れる道を作つてやることである。それによって、水は一定の方向を与えられ、勢いよく流れ出す。水がなくては水路は成り立たない。水に勢いがなければ、水路にゴミがたまってしまう。むやみに水路を壊そうとするのはよくないが、しかし勢いのある水が水路を変形させ、やがて崩してしまうことは、自然な成り行きである。

現在進行中の水路作り、果たしてそこを流れようと待ち構えている水は、充分だろうか。水に勢いがあれば、水路はむしろ、その水にしたがつて作ることができるはずである。

## □覚悟はできているか□

そしてぼくらがただひとつ、義務および任務として感じたのは、ぼくらのめいめいが、まったくかれ自身になりきって、心のなかにはたらいている自然の萌芽に、まったく順応して、その意志どおりに生きる結果、さだかならぬ未来が、ぼくらに何をもたらそうと、ぼくらはよろこんでそのすべてに対処するだけの、かくごができるといふことであった。(ヘッセ、新潮文庫)

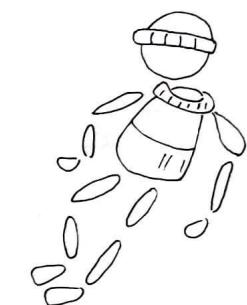
総合科学部の生命は、常に変化していること、生成していること、水の勢い。であるとすれば、安定させることは難しい。冒險する勇気があるか。覚悟はできているか。

そんなこと言ったって、生活がかかってるんだ。家族がいるんだ。四年で卒業して就職しなくちゃいけない。…もちろんそうではあるけれども、冒險とか覚悟とかいうことは、それほど悲壯にならなくてもできることかもしれない。少し工夫して少し変えてみること、そしてその結果は引き受けのこと。想像力を柔軟に働かせて、ちょっとした思いつきを口に出してみること。総合科学部に期待を寄せて集まつてくる人間にとっては、得意な事だと思う。

しかも現在の状況は、総合科学部らしい総合科学部であることが、学部の存続のためにもぜひとも必要なのである。今、学部として、個人個人として、態度を決定することを迫りつづけることなのだ…。

れているのだ。いまは変化のときである。しかし変化のときとは、総合科学部が最も総合科学部らしくなり得るときである。変化こそが総合科学部の命なのだから。

だから今、深刻な顔をするよりも、むしろ生き生きとして来ていいはずなのだ。そんな力強さがほしい。「総合科学部って何？」ときかれたとき、「総合科学部は総合科学部だよ」と答えて、有無を言わせぬ納得させてしまうような、パワーがほしいのだ。…そんな力が、実際、あちらこちらに感じられるはしないか…。



そうだ。この歡喜は、私が地上にこうしてあることから生まれているのだ。赤々と拡がる夕焼けがあり、壯麗な星が輝き、花の香りを運ぶ風が吹くということ、そのことから生まれる歓びなのだ。私は、この緑の大地から離れることはできない。いや、離れるどころか、私は木立や、風や、書物や、噴水や、花が好きなのだ。都会や市の喧噪こそが人間の歓びなのだ。通りすぎる女たちの笑い、布地を叩き売るシリア人の喫え声、立ったり坐ったりする客たち、列をつくって行進する軍隊、鎧をぶるう職人——こうしたもののうえに太陽が輝き、星がめぐるのだ。そうなのだ。町々があり、船が海をわたり、奴隸たちが大地を耕し、大工が家を建てるということ、そのことが歓びなのだ。そしてこの広大な世界を一つにして、そこで人々が生き、たのしみ、喋り、働き、旅をするのを保証するのがローマ帝国の役割なのだ。ローマ帝国の役割は、地上に在ることの歓びを担いつづけることなのだ…。

(辻邦生『背教者ユリアヌス』中公文庫)  
(学生編集長：古田智子)

# 総合科学部棟



④ 総合科学部の表玄関。いわば学部の顔とも言えるべき場所であるのだが、ここを通る学生は少なく、稀に通る学生も向かいにある体育館への通用口として利用している。  
(事務棟入り口)



⑤ 実際に事務窓口を利用する学生はこの裏口を利用している。  
(事務棟裏入り口)

⑥ 店名を公募していましたが、「Cut inn Sole」に決定しました。男性専用ではありませんので、女性の方も気にせずにご利用ください。

(理髪部スタッフ一同)



⑦ 東千田と違って購買部・書籍部・プレイガイドが一つにまとまりました。家電製品もカタログによって購入できます。周りにお店もないことですすめに寄ってください。本の立ち読みは他の人の迷惑になるのでやめてね。

(西2コープショップ 宮本)



⑧ 同時に約400名を収容可能です。ご利用ください。また、お昼時など混んでいる時期の席取りはご遠慮ください。

(西2生協食堂部 森永店長)

# の内と外

## 1. キャンパス編

⑨ 西図書館は10月18日開館予定。情報センターとして利用されるのはもう少し先の話であるが……。



⑩ 日当たりの良い図書館玄関前の石段は「青空研究室」あるいは「猿山」と呼ばれ学生達の溜まり場・待ち合わせ場所として利用されている。天気の良すぎる日には日陰面積の争奪戦が繰り広げられている。また、学生達の立ち去った後には弁当殻、タバコの吸殻、空缶が散乱しているとか。気を付けるべし、学生諸君！(西図書館)



### —西条の行列—

西条で生活し始めてからというもの、東千田キャンパスにいた頃よりも行列が目につくようになった。キャッシングコーナーでお金をおろすために、自転車を止めるために、人々は並び続ける。雨の日も、風の日も。中でも最も大規模なのは昼食時の食堂前にぎわいだ。西2生協から総科K棟にまで至るこの行列を、「メッカの巡礼」と人は呼ぶ。8月に広島信用金庫、広島総合銀行のATMが増設されたことでキャッシングコーナー前の行列は多少緩和されたが、第1駐輪場近くに建設予定の西1生協はまだ目処がついておらず食堂前の混雑ぶりは当分続きそうである。(キャッシングコーナーの写真は7月現在)

# 総合科学部棟



みんながお世話になっている講義棟。周囲の工事が終わるのが待ち遠しい。  
(総科K棟入口正面)



中川：  
「俺、中国語作文なんてわかんねえよ。」  
宮崎：  
「大丈夫だ。先生に合わせてとりあえず笑ってけ。」

一同：  
「アハハハッ？」  
(K 207)



「あのう、あなたは  
神を信じますか？」  
「...」  
(K棟2階ロビー)



左手は柔道場に剣道場、右手はバスケット専用コート。ランドリーと更衣室完備のこの体育館は合宿可能。右は体育実技バスケットの和やかな授業風景である。  
(西体育館)



# の内と外

## 2. 授業編

そびえ立つ総科の講義棟。  
そして今明かされる総科生の実態。  
(総科J棟)



教官の研究室・実験室で占められている  
A・B・C棟には一部の少人数の専門科目  
の行われているセミナー室もある。「大好  
きな朝倉先生の間近で授業が受けられてう  
れしいわ」という声もちらほら。

(A 606、セミナー室)



ロッカーもあるし椅子もあるよ。  
ここは格好の溜まり場となっている。  
ここに行けば誰か知り合いがいる。  
(J棟1階ロビー)



うおお！これが一人に一台マッキントッシュを揃えている最新式視聴覚教室だ。  
ここにはいる度「机の中に物を入れたり、コンピューターに触れたりしないでね」(Lしおばさん)と注意される。あなたはもう入ったか？

(J 209, LL教室)



東千田キャンパスのものよりも幾分広く、  
整然とした西条キャンパスの実験室。実験  
室は違ってもやることは同じである。学生  
の未熟な技量のせいか昼休みと3コマの授  
業が犠牲になり続けている。  
(H 301, 化学実験室)

# 総科棟の内と外

## 3. 生活編



(思案橋)

④ 総科棟から他学部棟へ行くのは遙かなる道のりである。事実、一番近い工学部へ行くには川を、教育学部へ行くには山を越えて行かねばならない。他学部との交流を図るために行われた統合移転。果たして効を成したのだろうか。



⑤働くおじさん。邪魔しちゃだめだよ。

④ バス停から続く石畳である。車両の通行が全面禁止だった頃はこんなにきれいだったが、今ではチャリ&バイクの無法地帯だ。あなたの横着心が景観を損なっていると知ったら、あなたはちゃんと駐輪場・駐車場を利用するだろうか？



⑤ 前期は総科棟周辺整備作業と授業が並行して行われていた。授業中に機械音がうるさかったり、工事作業のためあちこちが通行止めになったり、と学生たちの不満はつのったが、工事のおじさん側からも学生が立入禁止の柵を越えて困るなどの苦情もあった。自分たちの生活環境が改善されていくのだから、もう少し協力的になれなかつたのかな、と思う今日この頃。

## 今がチャンス

中村 猛（厚生補導係）

広島大学総合科学部が移転しはや数ヶ月が過ぎましたが、未だ環境の整備が立ち遅れ、雨が降れば道路は泥沼と化し、天気であれば車に数ミリの埃が降り積もるといった非常に悲惨な状況下で我々の西条キャンパスでの生活が始まっています。この様な状況は今後の環境整備により改善していくはずですが、解決しにくい問題点が幾つかあるように思います。



昔、私の知人よりチャンスの神様について話を聞いたことがあります。この神様は前髪しかなく、捕まえようとするにはその髪を掴むしかないそうです。神様は後髪がないので、いったん通り過ぎてしまうとチャンスを掴むことは出来ないということです。



新キャンパスでの学風を作り上げるには、今がチャンスです。総合科学部の一員として責任ある行動をとり、より一層、明るく秩序ある総合科学部を作り上げようではありませんか。

ところで最近ツキがないとか、ツキから見放されていると思ったことがありますか。今あなたの前にチャンスの神様が現れるかも知れません。くれぐれも前髪を掴み損ねぬようご注意を！



まず、西条キャンパスに入り目に付くものとして、何と多くの車・自転車が車道、歩道、空地の区別もなく他人の迷惑も考えずに停められていることでしょう。駐車場・駐輪場の整備が遅れているとはいえ、一般的な常識で考えれば判ることなのですが、「ついつい」とか、「自分だけなら」という思いで駐車しているのでしょう。さらに、庁舎内への入庁の際、足元が汚れているにもかかわらず平気で廊下を歩きまわる無神経さたるや、社会一般の常識が欠けていると思わずにはいられません。この様な日常的な問題点は他にも数多く山積していますが、個々の意識改革を行うことにより大部分の問題は解決出来るのではないかでしょうか。

# 西条キャンパスのそこが知りたいーおいおい聞いてないよー

長坂 鈴(生体行動科学コース3年)／浜田文子(自然環境研究コース3年)／井戸田典子(地域文化コース3年)

まだまだ整備の終わっていない西条キャンパス。緑生い茂る工学部に比べ、ジャリと土ボコリの総科。「何でこんな所に住まなきやいけないの。」と思っている人も多いことでしょう。漠然とした不満を持っていた私達はいろいろな噂を耳にしました。「総科の前の道ってお金がないからジャリ道になるんだって」「西条って水道代が3倍もするんだって」、本当なのでしょうか?私達は、自分達が学生への情報窓口になれればと思い、今回の記事を書くことにしました。



千田キャンパスにあった駐車場の屋根は移転して来なかったようだ。

## 3. 自転車が銷びるんですケド…

自転車置場はほぼ完成しているが、これからも屋根はつかないそう。これってけっこうお金のかかることみたいですね。(そんな!!)又、自動車の方は予定では……

来年3月 西図書館西南490台

それ以降 西多目的グラウンド北西170台  
これらはいずれも総科専用ではなく、広大全体の駐車場だということ。

## 4. 怪?出られない出口

総科には、「出入禁止」と赤字で貼紙した出入口がたくさんある。これは非常口なのだ。



あふれちゃってます。分別も何もあったものではありません。

## 5. あふれるゴミ

K棟廊下のゴミ箱はいつもゴミでいっぱい。冷水機が設置されていないため皆缶ジュースを買うのでしょうか。もう少し大きいゴミ箱だと良いのかも。又、可燃物と不燃物はほとんど区別せずに、捨てている人が多いようです。紙や木片類は可燃物、ビニール、プラス

チックは不燃物ということになっているんだけど……分別を怠ると後の仕分けで人件費がかからてしまうそう。めんどくさくても、分けて捨てるようにしたい。

## 6. エレベーターが止まる?

A棟、C棟のエレベーターは2機並んでいますが、これはもともと、移転の時に荷物を運ぶことを考えて2機つくられたものです。移転が完了した今となっては、経費もかさむことだし、1機のみの使用にしたいのは事実だそう。

## 7. 西条は水道代が高い?

一度使った水をリサイクルするという努力も行われているものの、単純計算で、西条での広大の年間水道使用量は約24万トン。その料金は6千万円を越える。これは、同じ量の水を広島市で使った場合より、約522万円(約1割)高い。女性の皆さん、「音姫」を活用してますか?

## 8. ズバリ、広大ってどれくらい貧乏なの?

「すごく貧乏です。」間髪入れずおしゃつたのは財政小委員長のH先生。上記の水道やエレベーターの件からも分かるけれども、特に総科は建物の総面積が広くなっていることにより蛍光灯の数もぐっと増えて電気代もバカにならないのだ。予算以上の出費は研究費であなうめされるというから、大学にとってピン

## 結びにかえて

新しいキャンパスについて、大学側の情報があまりに乏しいように感じられました。窓からのブルドーザーの音がうるさくて、授業が静かに受けられるのはいつなのか、目安が欲しいという声もありました。仲をとりもつ情報が欲しいと思います。思えば、西条に引っ越しして来るとき、家賃が高くなる、下宿が足りない、あし(交通機関)がない、など様々な問題が起っていたにもかかわらず、大学側からの情報は不足していました。一方学生の方も、ニーズを出さなければと思いました。

西条キャンパスはまだ、学生の活動基盤となるのに充分な環境にはなっていません。多分環境がきちんと整うのは私達が卒業した後になるでしょう。でも、今だからできること、しなければならないことがあると思います。例えば、電気をこまめに消したり、冷暖房のきいた部屋ではちゃんとドアを閉めたりすることが、長い目で見れば施設の充実につながるかもしれません。また、教室や廊下に落ちているゴミを拾ったり、建物に入る時、靴の砂を落とすよう心がければ、校舎の老朽化を遅らせることができると思います。

住みよいキャンパスにするために、また、より良い西条Lifeを送るために、みなさんも何か始めてみませんか?



予算がないと言うわりには明るく輝く夜の西条キャンパス。

この他にも、アンケートをとった結果「視聴覚の設備を使わせて欲しい。」「木を植えてほしい。」「ベンチを置いてほしい。」「K棟やJ棟のロビーに自動販売機を置いてほしい。」「憩いの場が欲しい。」などの要望が多数ありました。これらの要望については、文書により厚生補導係に提出されたいとのことです。関係の委員会により検討されます。

「5人」。この数字は昨年1年間における、広大生の交通事故死者数である。今年に入ってからも既に総科生1人を含む2名の死亡者があった。(6月末現在)

西条キャンパスに移転し、自動車等の利用頻度が高まって来た今、改めて交通事故のもつ重大性を見直していきたい。そしてともに入学した同級生が欠けることなく卒業できる、そうした総科を作り上げるきっかけとしていきたい。(編集委員会)

## 大靈界への加速ーそれでも君は走るのか？ー

高島 裕臣(編集部：外国語コース2年)

「総合科学部はよう人が死ぬ学部でね」これは今年、さる教授が亡くなったことに対する、ある先生のことばだが、学生のほうも、負けずとよく死ぬ(そればかりか殺すこともあるかも知れぬ)。その原因は?言わずと知れた交通事故である。

私の知り合いにはバイクで事故を起こした人が何人かいるし、事故を目撃したことだつてある。また、4月に起きた悲しい自動車事故で、総科の学生2人が被害にあってる。私自身、車を運転していて、対面通行の道で、向こうから追い越してきた暴走車と正面衝突しそうになったことがあった。初めにいっておくが、車は凶器である。そのことを再確認していただきたい。

### 人口にしめる交通事故死者の割合について

		日本全国	広島県	広島大学
平成	人口	123254671	2852707	12521
一年	事故死者数	11086	277	3
平成	人口	123611167	2849822	12907
二年	事故死者数	11227	299	4
平成	人口	124043418	2849849	12981
三年	事故死者数	11105	279	4
平成	人口	123587297	2851218	13136
四年	事故死者数	11451	256	5

### どこが危ない？大学生の運転

#### ～注意点の再確認～

去る6月25日、「平成5年度総合科学部交通安全講話」が開かれた。そこでは、西条地区で広大生が関わった事故についての警察の方のお話と、実際に事故で加害者の立場に立つたことのあるOBのお話があったのだが、みなさん、お聞きにならなかったらどうか。話によれば、昨年1年で広大生5人が交通事故で死に、今年に入ってからは2人だが、その2人という数は、西条地区での今年の事故死者全体の28.6%におよぶという。「西条にある学部の数だけ毎年死んでる」という話もきく。これを聞いてもまだ何も感じないような、あなたはもう片足を三途の川に踏み入れているとしかいいようがない。

事故を起こした広大生達に共通して言えることは、①深夜の運転、②スピードの出し過ぎ、③無謀運転、だったと言う。

夜遅くなると、トラックなどはほとんどが居眠り運転だというし、皆少なからず眠いのを我慢して走っているといってよかろう。そんな状態だと判断が鈍り、人を殺したり、死んだりしやすくなる。眠たいときは車やバイクには乗らないようにしよう。

スピード違反…これほど重要なに、こんなにも軽視されることはほかにない。アクセルをベタ踏みすれば、余計にガソリンを食う。捕まれば、罰金。下手をすると免停。スピードを出しても、あまり得にはならないのである。

広大生の特徴として、「標識が目に入らない」「selfish & recklessな運転」が挙げられるらしい。一方通行を逆走するバカ、いや人。進入禁止を無視する人。スクーターのノーヘル二人乗りは可愛いほうで、4人乗りするのもいれば、傘をさす曲芸師もいるらしい。ワインカーは出さない。車で歩道を走る。平気で路上駐車する。皆大人なんだったら、もういいかげんにしないか?

軽い気持ちから起こる大きな事故。加害者になれば、重い責任がのしかかり、もう今のように呑気には生きられなくなる。被害者になった場合や、単独事故で大怪我をしたときの、親兄弟にかける精神的、経済的負担。何一ついいことはない。我々は、自分ひとりの力で生きているのではなく、周りの人々によって生かされているのだ。一度きりの人生を、自分のちょっとした不注意から起こった事故が台無しにしてしまうと思えば、もう皆、無茶をするのをやめてくれるだろう?

	日本全国	広島県	広島大学	死者数の比率
平成一年	0. 899	0. 971	2. 395	I: 1.08 : 2.66
平成二年	0. 908	1. 049	3. 099	I: 1.15 : 3.41
平成三年	0. 895	0. 979	3. 081	I: 1.09 : 3.44
平成四年	0. 926	0. 898	3. 846	I: 0.97 : 4.15

◆つまり、広大生が交通事故で死ぬ確立は、全国平均の3.4~4.2倍?!◆

### 免許持ちの人たちへ

#### それでも走るというのなら…

皆さん、車やバイクに乗るとき、もしかして事故を起こすかも…と思って乗るだろうか。いやきっと、遊び半分の気持ちでいるはずだ。スピードを出して格好付けよう、などとも思うかもしれない。だがそれより、「堅実な走りをしてみなを安心させよう」と思ってながら車やバイクに乗っていただきたい。

そして、「車」「バイク」「歩行者」などの個々の役割を演じるだけでなく、常に自分と相手の立場を考え、お互いがいちばんよい関係であるようでなければならない。例えば、ドライバーが、あの歩行者邪魔だな、と思うとき、歩行者は、あのクルマ恐いなあ、と思っている。通常我々はその一方のみを感じただけだが、両方同時に感じることができれば安全運転につながるだろう、ということだ。

まず車がいかに恐ろしい殺人機械であるか気付いてほしい。そして自分がいかに弱く、いかに車を操りきれていないかを認めてほしい。酔っ払って運転する話もよく聞くが、もってのほかだ。運転しているのは、車だけか?命も運転しているのだ。事故で死んでいったわたしたちの仲間のためにも、もう馬鹿な運転はやめよう。事故を起こしてから反省しても、遅いのだ…。



キキーッガシャン!!

(提供:西条警察署)